

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要

喜茂別町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査日 令和7年4月17日(木)

(2) 調査の目的

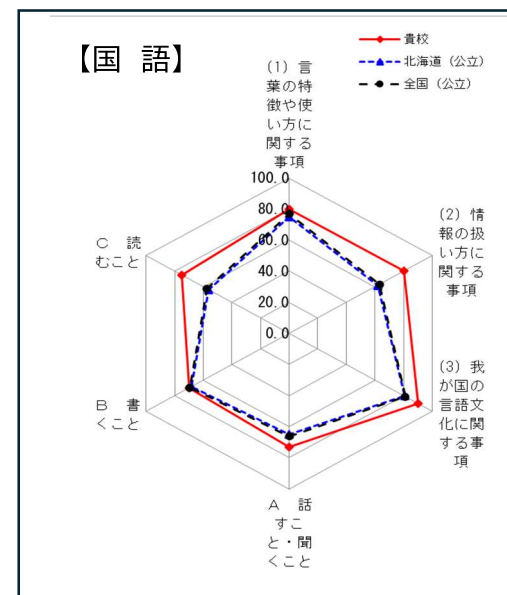
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、本町の児童生徒の状況と比較分析することにより教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することにより学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) 調査内容

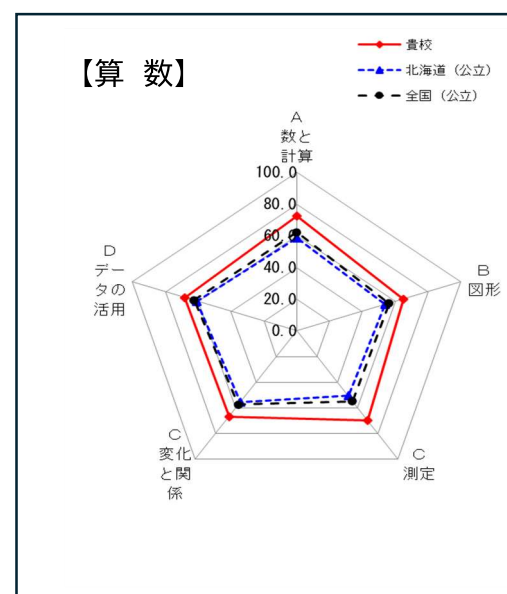
調査対象学年	①教科に関する調査	②生活習慣・学習環境等質問紙調査
小学校第6学年	国語	・児童生徒に対する質問調査
	算数	(質問数：小学校71問・中学校70問)
	理科	
中学校第3学年	国語	・学校に対する質問調査
	数学	(質問数：小学校84問、中学校84問)
	理科	

2 教科に関する調査結果 【小学校第6学年】

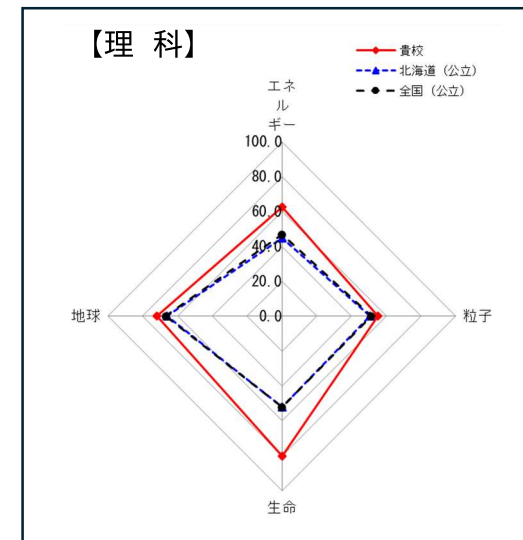
教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【国 語】		65.0	66.8	↑	↑
領 域	話すこと・聞くこと	65.0	66.3	↑	↑
	書くこと	68.3	69.5	↗	↗
	読むこと	56.1	57.5	↑	↑
	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	76.9	↑	↗
	情報の取り扱いに関する事項	61.8	63.1	↑	↑
	我が国の言語文化に関する事項	80.6	81.2	↑	↑



教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【算 数】		55.0	58.0	↑	↑
領 域	数と計算	58.6	62.3	↑	↑
	図 形	53.9	56.2	↑	↑
	測 定	50.7	54.8	↑	↑
	変化と関係	55.4	57.5	↑	↑
	データの活用	60.9	62.6	↑	↑



教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【理 科】		56.0	57.1	↑	↑
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.8	46.7	↑	↑
	「粒子」を柱とする領域	50.7	51.4	↑	↗
	「生命」を柱とする領域	51.9	52.0	↑	↑
	「地球」を柱とする領域	65.9	66.7	↑	↑



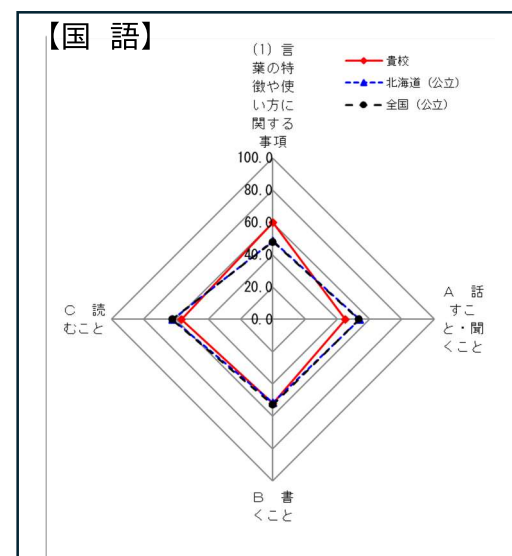
備考 1 本町と北海道または全国の平均正答率の差

①	→	北海道または全国と同じ
②	↗	北海道または全国を0～3ポイント上回る
③	↘	北海道または全国を0～3ポイント下回る
④	↑	北海道または全国を4～7ポイント上回る
⑤	↓	北海道または全国を4～7ポイント下回る
⑥	↑↑	北海道または全国を8ポイント以上上回る
⑦	↓↓	北海道または全国を8ポイント以上下回る

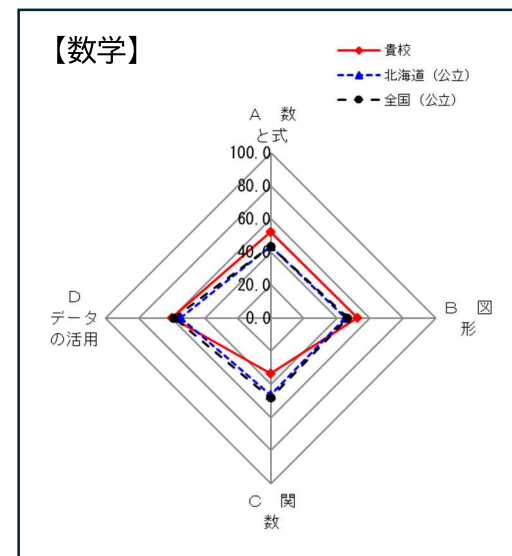
2 領域とは、学習指導要領で定められている指導領域をいいます。

3 教科に関する調査結果 【中学校第3学年】

教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【国 語】		54.0	54.3	↘	↘
領 域	話すこと・聞くこと	53.8	53.2	↓	↓
	書くこと	51.4	52.8	↗	↘
	読むこと	62.0	62.3	↓	↓
	言葉の特徴や使い方に関する事項	48.8	48.1	↑	↑



教科・領域		平均正答率			
		北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
【数 学】		47.0	48.3	↗	↗
領 域	数と式	43.4	43.5	↑	↑
	図 形	44.9	46.5	↑	↑
	関 数	46.6	48.2	↓	↓
	データの活用	54.8	58.6	↑	↗



中学校の理科は、タブレットを使用してオンラインで出題・解答する方式が初めて導入され、結果については、国際的学力調査で使われるIRTスコア（標準スコアを500とした場合の全国・北海道・本町のIRTスコア）で示されています。IRTは、個々の試験問題の平均正答率だけではなく、難易度や識別力といった特性を考慮して得点が算出されます。

教科・領域	IRTスコア			
	北海道(%)	全国(%)	喜茂別町	
			北海道対比	全国対比
【理 科】	505	503	↗	↗

備考 1 本町と北海道または全国の平均正答率の差

⑧	→	北海道または全国と同じ
⑨	↗	北海道または全国を0～3ポイント上回る
⑩	↘	北海道または全国を0～3ポイント下回る
⑪	↑	北海道または全国を4～7ポイント上回る
⑫	↓	北海道または全国を4～7ポイント下回る
⑬	↗↗	北海道または全国を8ポイント以上上回る
⑭	↘↘	北海道または全国を8ポイント以上下回る

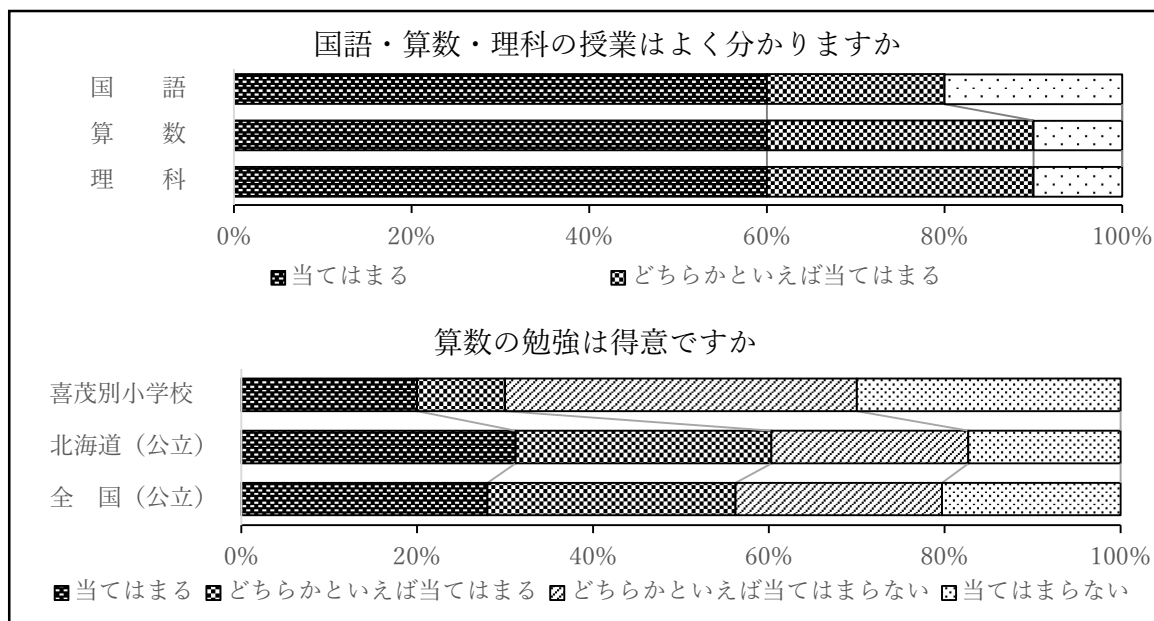
2 領域とは、学習指導要領で定められている指導領域をいいます。

4 分析結果によるこれまでの取り組みで効果があった事項 【小学校 第6学年】																																														
国語	○ 授業の中で日常的に話し合い活動や交流の活動を続けてきたことで、「話すこと・書くこと」の記述式問題で正答率の高さが見られた。 ○ 漢字の学習に、授業中や朝学習の時間を使いながら日常的に取り組みを積み重ねてきたことで漢字を読む・書く力が定着してきていると考えられる。																																													
算数	○ 数と計算の領域など、知識・技能にかかわる問題で非常に高い正答率が見られた。授業時間での学習したことが定着するように、練習問題に取り組む時間を多く確保してきた。 また、デジタルドリルを活用し自分のペースで学習を進められることや、デジタルドリルにある苦手箇所を明示する機能により、自分にあった学習を進められるようになったことも学力の定着につながったのではないかと考えられる。																																													
理科	○ 「生命を柱とする領域」では高い正答率が見られた。ヘチマなどを実際に自分たちで栽培し、観察する時間を多くとることで、そこで得た経験や体験が積み重なり、身についたことが関係しているのではないかと考えられる。 ○ 「エネルギーを柱とする領域」でも正答率が高く、磁石のはたらきや回路の作り方、電磁石について、おおよその知識が身に付いていることがわかった。上記同様、理科専科教諭の指導の下、実験など体験を通した学習を積み重ねてきたことが定着につながっているのではないかと考えられる。																																													
児童質問	○ 他者との関わり方や相手を思いやる気持ちについて、肯定的回答が100%となっており、昨年度から学校全体で「思いやり」の気持ちに重点を置いた指導と教育活動を行ってきたことが関係しているのではないかと考えられる。 人が困っているときは、進んで助けていますか。 <table><tr><td>喜茂別小学校</td><td>40%</td><td>55%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td>50%</td><td>45%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>全 国（公立）</td><td>50%</td><td>45%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr></table> ■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 <table><tr><td>喜茂別小学校</td><td>80%</td><td>15%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td>75%</td><td>20%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>全 国（公立）</td><td>75%</td><td>20%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr></table> ■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 <table><tr><td>喜茂別小学校</td><td>90%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>北海道（公立）</td><td>85%</td><td>15%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>全 国（公立）</td><td>80%</td><td>20%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></table> ■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない	喜茂別小学校	40%	55%	5%	0%	北海道（公立）	50%	45%	5%	0%	全 国（公立）	50%	45%	5%	0%	喜茂別小学校	80%	15%	5%	0%	北海道（公立）	75%	20%	5%	0%	全 国（公立）	75%	20%	5%	0%	喜茂別小学校	90%	10%	0%	0%	北海道（公立）	85%	15%	0%	0%	全 国（公立）	80%	20%	0%	0%
喜茂別小学校	40%	55%	5%	0%																																										
北海道（公立）	50%	45%	5%	0%																																										
全 国（公立）	50%	45%	5%	0%																																										
喜茂別小学校	80%	15%	5%	0%																																										
北海道（公立）	75%	20%	5%	0%																																										
全 国（公立）	75%	20%	5%	0%																																										
喜茂別小学校	90%	10%	0%	0%																																										
北海道（公立）	85%	15%	0%	0%																																										
全 国（公立）	80%	20%	0%	0%																																										

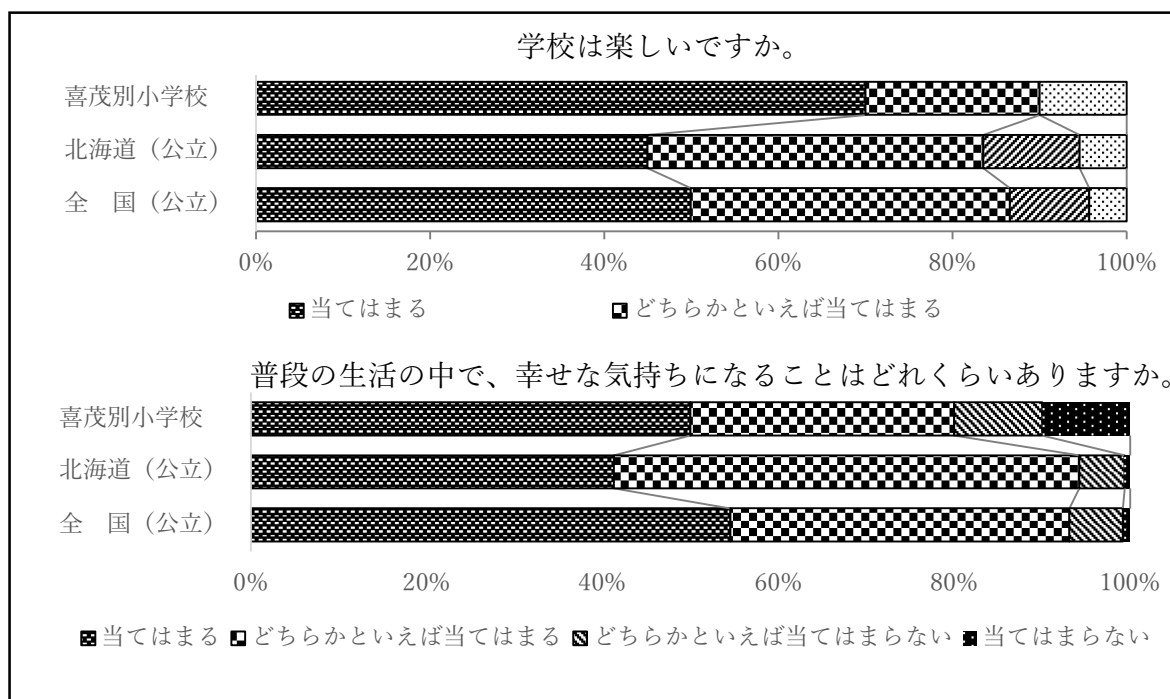
児童 質 問	○ ICT 機器の活用について肯定的回答が 100%となっており、日常的に活用してきたことで子ども自身が「できる」という思いをもてるようになってきていると考えられる。
	タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる 喜茂別小学校 北海道（公立） 全 国（公立） 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答
	○ 授業の時間が自分にあった学び方になっているかについて肯定的回答が 100%となっている。授業が個に応じた学びとなっていることが伺える。
	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか 喜茂別小学校 北海道（公立） 全 国（公立） 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 無回答

5. 今後取り組むべき事項・改善事項分析結果による 【小学校 第6学年】	
国語	○ 話し合いで、相手が何を意図して発言しているのかという情報を整理したり、分類したり、自分の意見を理論的に話すことに課題がある児童が多い。日常的に、根拠や理論をもとに話す「話し方」を指導し積み重ねていく。 ○ 「読むこと」では、多くの資料を正確に読み取ったり、文章と関連付けて読んだりすることに課題がある。読書でも文章量の少ない本を選ぶ児童が多く、文章を読むことに慣れていないことが考えられる。文章量の多い本に親しめるように、教師が適切に本を紹介するなど読書活動の充実を図っていく。
算数	○ 分数の問題で、分母と分子の意味を正しく理解できていない児童が多く、誤答が目立った。「データの活用」では、解答となるデータを選ぶことはできるが、そのデータを選んだ理由記述する問題で誤答が目立った。国語の学習とも関連してくるが、問題を正しく読み取る力や、自分の考えを根拠をもとに、理論的に伝えることに課題がある。今後は、算数で使われる式などの「算数用語」を使いながら、自分の考えをまとめていくやり方を授業の中で取り入れるために、授業の振り返りを大切に、自分の考えやまとめを文章で書く活動を多く取り入れ「書く」経験を積み重ねていく。
理科	○ 日常生活の中で体験したり経験したりしたことが、学びを深めることにつながっているのではないかと考えられる。3 年前から理科専科加配制度を取り入れてきたことで、実験や体験活動を取り入れた授業が展開され、児童の学習を深めることにつながっていると考えられる。今後も、体験的な学習や生活とつながる学習を展開することで、児童の力を高めていく。

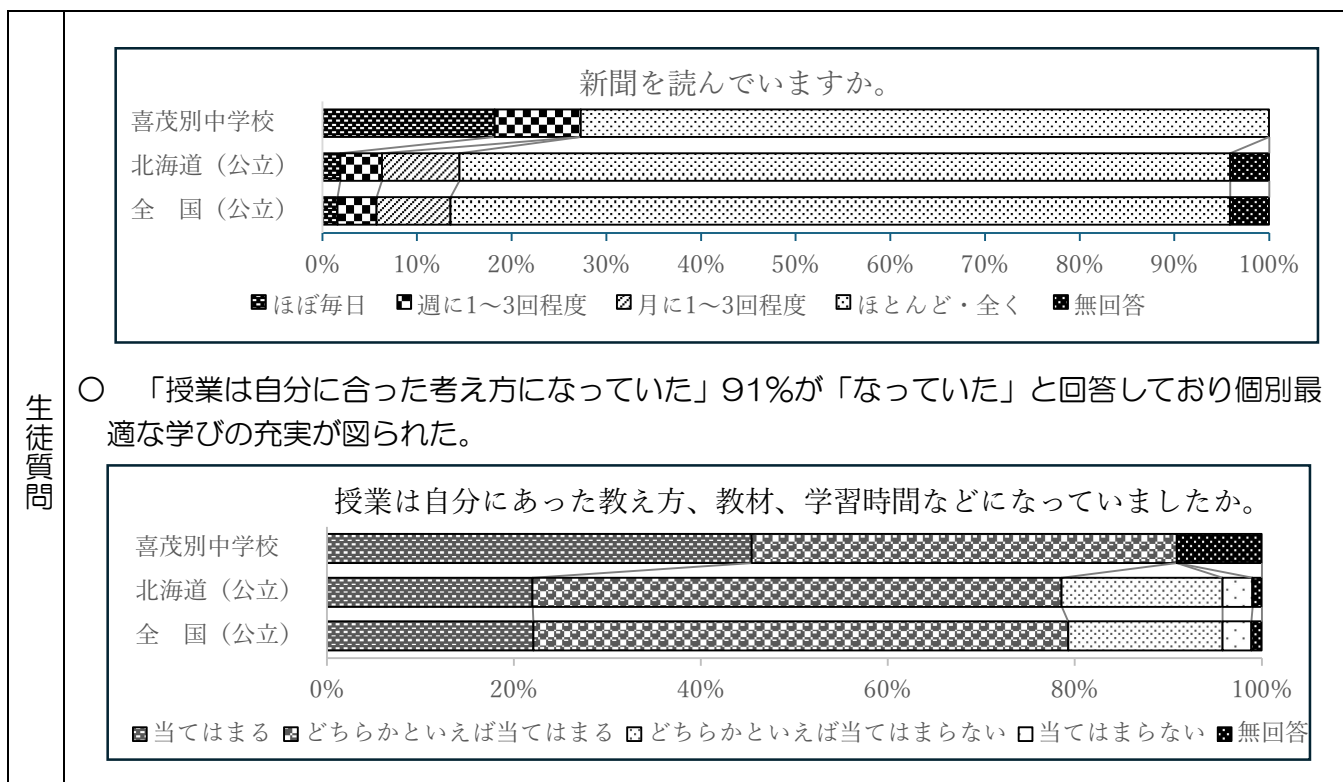
- 国語・算数・理科のそれぞれの教科について授業が理解できると肯定的な回答をした児童が80%となっており、「わかる」という思いをもっている児童が多い。その一方で算数の教科を「得意」と思っている児童は3割と算数を苦手と感じている児童が多く見られる。学力テストの結果からも、複雑な複合型の問題で苦戦していることが読み取れ、基礎基本は定着しているものの、その学びを活用できないことで苦手意識につながっていると考えられる。今後は、家庭学習や朝学習の時間、授業の定着の時間を活用し、様々な問題を解く機会を増やし自信をもって問題に取り組めるようにしていく。



- 「学校に行くのは楽しい」で否定的な回答10%、「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」の否定的な回答20%と、否定的な思いをもっている児童は少ない。一人一人様々な感じ方をもっているので、否定的に感じている児童の思いに寄り添い、一人一人の学校生活が安心して充実したものになるよう職員全体で目をかけ、サポートしていく。



6 分析結果によるこれまでの取り組みで効果があった事項		【中学校第3学年】																																													
国語	○ 複数の資料を読み取って適切に処理したり、ICT 機器を活用して考えをまとめる指導により、「目的に応じて集めた資料を整理して伝えたいことをまとめる」「資料や機器を活用して自分の考えが伝わるようにする」といった問題の正答率引き上げに繋がった。																																														
数学	○ 素数や平行四辺形の性質など、数学における基本的な事項に関する問題の正答率が全国平均よりも高いことから、日常の授業において実践している知識技能の定着が実を結んでいる。 ○ 証明問題では、ワークシートを工夫した結果、証明に対する抵抗感が薄まり、根拠を持って文章を書くことができるようになっている。																																														
理科	○ 知識・技能を見る問題の分析結果から、基本的な知識はある程度定着していると考えられる。 ○ 身に付けた知識を活用する能力が全国平均よりかなり結果となり、日常の授業で得られた知識や実験を、ワークシートやICT機器を活用してまとめる活動が、今回の好結果に繋がっている。																																														
生徒質問	○ 基本的生活習慣(朝食を摂る、決まった時間の起床)は、ほとんどの生徒が身についている。 朝食は毎日たべていますか。 <table><tr><td>喜茂別中学校</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>北海道 (公立)</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>全 国 (公立)</td><td colspan="4"></td></tr></table> 毎日、同じ時間に起きていますか。 <table><tr><td>喜茂別中学校</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>北海道 (公立)</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>全 国 (公立)</td><td colspan="4"></td></tr></table> ○ 学校の図書館利用促進や新聞コーナーの設置など、読書活動の充実により「読書が好き・どちらかというところ好き」と答えた生徒が64%にのぼり、さらに、新聞を週に1度は読むと回答した生徒の割合は全国よりも上回った。学校の図書館利用促進や新聞コーナーの設置が効果を押し上げている可能性がある。 読書は好きですか。 <table><tr><td>喜茂別中学校</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>北海道 (公立)</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>全 国 (公立)</td><td colspan="4"></td></tr></table>		喜茂別中学校					北海道 (公立)					全 国 (公立)					喜茂別中学校					北海道 (公立)					全 国 (公立)					喜茂別中学校					北海道 (公立)					全 国 (公立)				
喜茂別中学校																																															
北海道 (公立)																																															
全 国 (公立)																																															
喜茂別中学校																																															
北海道 (公立)																																															
全 国 (公立)																																															
喜茂別中学校																																															
北海道 (公立)																																															
全 国 (公立)																																															



7 分析結果による今後取り組むべき事項・改善事項 【中学校第3学年】

国語	○ 意見や考えと、根拠を結びつけることに課題のある生徒が多い。ワークシート等でも「事象に対して具体的に根拠を書く」という習慣を身に付けさせ、さらに言葉で表現(発表)できる力を身に着ける。 ○ 表現方法の効果について理解していない生徒が多かった。文章を書いたり、発表したりする機会を増やしていく。																				
数学	○ 一次関数の分野において、理解していない生徒が全体的に多く、全般的に関数分野への苦手意識が高い。学習支援加配を活用し、1年次の比例・反比例の単元や現在取り組んでいる二次関数の分野を含め、基本的な部分を復習する機会を設け、苦手を減らしていく。																				
理科	○ 化学式を答える問題が顕著であるように、特定の分野において知識が定着していないことがわかった。粘り強く覚えなければならない語句や元素記号が定着していないことなどから、小テストを実施して知識の定着を図っていく。																				
生徒質問	○ 「学校に行くのが楽しい・どちらかという楽しい」では、全国平均よりも10ポイント以上低い数値が出ている。前述の通り、「学ぶ楽しさ」は個々に実感できている生徒も多いため、「学ぶこと」以外の要因が考えられる。引き続き、相談体制等を整えていく。 学校に行くのは楽しいですか。 <table><thead><tr><th>グループ</th><th>当てはまる</th><th>どちらかといえば当てはまる</th><th>どちらかといえば当てはまらない</th><th>当てはまらない</th></tr></thead><tbody><tr><td>喜茂別中学校</td><td>70%</td><td>25%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>北海道(公立)</td><td>40%</td><td>40%</td><td>15%</td><td>5%</td></tr><tr><td>全国(公立)</td><td>45%</td><td>35%</td><td>15%</td><td>5%</td></tr></tbody></table> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない	グループ	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	喜茂別中学校	70%	25%	5%	0%	北海道(公立)	40%	40%	15%	5%	全国(公立)	45%	35%	15%	5%
グループ	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない																	
喜茂別中学校	70%	25%	5%	0%																	
北海道(公立)	40%	40%	15%	5%																	
全国(公立)	45%	35%	15%	5%																	

- 家庭学習時間が全国平均よりも短い。特に、土日などの学校が休みの際、勉強時間が1時間未満が55%、その中でも、「全く勉強しない」が半数近くいることから、家庭との連携を進めて家庭学習の定着を図る。

